

大豆収穫特報

令和6年10月
黒部市
黒部市農業技術会議

ほ場や品種ごとの成熟状況を確認し、刈り遅れのないよう計画的に収穫作業を行いましょよう。

1. 収穫前の準備

- ・ 収穫前に大きな雑草や青立ち株を抜き取り、汚損粒の発生を防止しましょよう。
- ・ ほ場間差が大きいので、落葉状況や莢色を確認して、成熟の早いほ場から収穫を始めましょよう。

【落葉状況による予想】ほ場の40～50%の株が全落葉してから1週間後
【子実水分や莢色による刈取始期の目安】

えんれいのそら	全体の莢の9割以上が褐色になり、 子実水分は 22%以下
シュウレイ、オオツル	ほとんどの莢が褐色になり、 子実水分は 20%以下

- ・ 子実や莢の水分が高いと、汚損粒や破碎粒、脱穀選別ロスが増加し、刈遅れは、しわ粒や腐敗粒が増加するとともに、子実の光沢が低下しましょよう。

2. 収穫

- ・ 収穫作業は、莢や茎が乾いた時間帯（午前10時～午後4時頃）に行いましょよう。
- ・ コンバインの刈取り高さは地際から10cm程度とし、土の混入による汚損粒の発生を防止しましょよう。

3. 乾燥・調製・選別

- ・ 急激な乾燥は、しわ粒や皮切れ粒の発生原因となるので、**通風乾燥するか、加温する場合は「気温+5℃以内」**の送風温度で乾燥しましょよう（毎時乾減率は0.3%以下とする）。
- ・ **仕上げ水分は14%とし、選別は適正な流量で**行い、被害粒や異物（雑草種子等）を取り除きましょよう。

裏面へ

難防除雑草が増加しています！

- 難防除雑草は、ほ場周辺で早期発見、早期防除し、ほ場への侵入防止が重要です。種子寿命が長く、土の中で何年も生き残るため、水田に戻しても死滅しません。
- ほ場に侵入してしまった場合は、収穫前に抜き取り、ほ場外で適切に処分しましょう。

【帰化アサガオ類】

つる性で、大豆に絡みつき、倒伏の原因、機械作業の妨げとなる



マルバルコウ



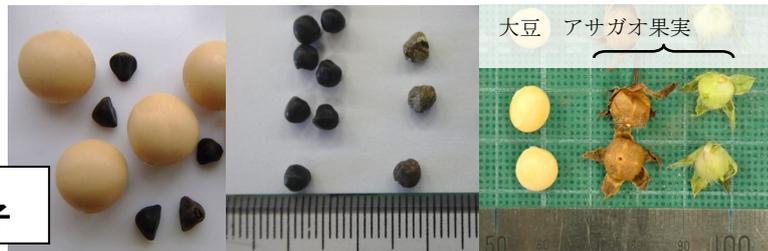
マルバアメリカアサガオ



マメアサガオ

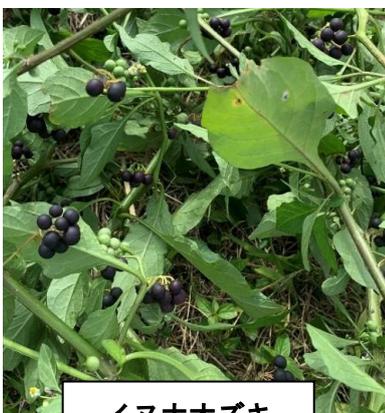
アサガオ類が発生していたほ場の収穫物は、他のほ場と区分して調製を行いましょう。また、適正流量を厳守し、大豆に混ざらないように確実に除去しましょう。

写真2
大豆とアサガオ種子



【イヌホオズキ類、その他】

汚損の要因となる



イヌホオズキ



ヨウシュヤマゴボウ

イヌホオズキ、ヨウシュヤマゴボウ等には毒性があるため、他県では、果汁等が付着して汚損した大豆子実が食用として流通できなかった事例があります。

イヌホオズキ等の果実は、収穫時の汚損により、外観品質を低下させるほか、毒性成分を有しています。刈取前に確実に抜き取りましょう。

また、難防除雑草の拡散を防ぐため、発生ほ場の収穫後は、足回りなどの清掃を徹底しましょう。